

「見つけよう、美」 ～日比崎「伝統色」屏風～

本題材で育成する資質・能力

(教科) 色彩の性質を理解し、表現や鑑賞の能力を高める
(学校) 表現力、コミュニケーション能力、主体性

- 1 日時 平成29年11月17日 10:50～11:40
- 2 学年 第1学年1組 (男子18名 女子19名 合計37名)
- 3 場所 美術室
- 4 題材について

○ 本題材は、色料の三原色や色の三属性など、色の基礎知識を学ぶことから始まる。その知識をもとにして、ポスターカラーを混色していくことで判明した混色のポイントを、班活動によってまとめ、「混色レシピ」を制作する。生徒自らで考えた「混色レシピ」をもとに、自分がイメージした色を混色によって作りだし、共同制作で屏風として作品にすることで、明度や彩度による色の微妙な違いや、混色によってつくられた色の良さを味わう活動を行う。

本時の活動では、生徒が具体的に感じ取ったり、イメージしたりするために着物と金屏風を用意する。着物の背景に置く金屏風へ、混色した色を塗った和紙を貼り付けて作品に仕上げる。着物に合う色相・明度・彩度をイメージし、言葉で表す。言葉で表した色をポスターカラーで混色し、理想の色を表現する。この活動を通して、色彩の性質を理解し、豊かに発想し構想する能力や色彩による表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。

- 本学級の生徒は、アンケートで次のように答えている。

美術の授業に満足しています。	肯定的回答 100%
授業では解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と予想しています。	肯定的回答 79%
授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	肯定的回答 94%

以上の結果から、美術に対しての意欲が非常に高い。また、表現活動に積極的な生徒が多く、特に目的が明確な活動に関してそれが顕著である。班活動やお互いの作品を鑑賞する時間においては、お互いの個性を認めるような発言や振り返りが多く見られる。自分の美意識や価値意識を、他者と共有することが自然とできている。しかし、課題について予想をたてて活動しているかという問いについて、他のアンケートに比べて肯定的回答が少なかった。予想をたてたり、想像したことを形にするという点で課題があることが分かる。

○ 指導に当たっては、色彩から感じ取ったことをもとに、生徒がイメージを膨らませ、自分がふさわしいと感じる色を試行錯誤して作り出す意欲や態度を重視する。また、班活動によって各々が屏風にふさわしいと思う色を交流させることで、既習知識を使って他者と意見を交わしたり、互いの美意識に触れたりする活動を行う。生活の中に色彩はあふれている。だが、生徒がその事を意識する瞬間は多くない。または、気付かないで終わることもある。混色をすることで感じることのできる些細な色彩の違いやに気付き、生活を豊かに彩る色彩の美しさを実感させたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科、領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、「解決したい」或いは「達成したい」学習課題を設定し、学習班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

	資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3	
知識・スキル	表現力・コミュニケーション能力	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）			
		（話す） 自分の考えや意見を、自分のことばで、表現することができる。	わかりやすく（伝える） 自分の考えや意見を、わかりやすくまとめ、自分のことばで、表現することができる。	（説得する） 自分の考えや意見を、わかりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で、表現することができる。	
		（聞く） 相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、聞いている。	（聴く） 話の組み立て構造を考えながら、相手の意図や要点を整理しながら、聴くことができる。	（訊く） 相手の考えについて根拠の信頼性を判断しながら、訊くことができる。話された内容と自分の意見をふまえて疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	
	聞いて質問することができる。 （やりとり1回）	さらに深めた質問ができる。 （やりとり2回）	質問の後に自分の意見を述べ、内容を深めることができる。 （やりとり3回以上）		
意欲・態度	主体性	課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで、取り組もうとしている。	自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで、取り組もうとしている。	

6 目標

○色の性質を理解し、イメージした色をつくりだすことができる。

7 題材の評価規準

美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・色彩の美しさを味わおうとしている。 ・混色によって主体的に表現しようとする。	・感性や想像力を働かせて豊かに発想し、着物の背景にふさわしく美しい色彩を考え表現の構想を練っている。	・色の性質についての知識を生かして、着物に合う色彩をつくることができる。	・感性や想像力を働かせて、色彩のよさや美しさなどを感じ取り味わっている。

8 指導計画（全7時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価		
			関意	発想	技能	鑑賞	評価規準	資質・能力（評価方法）	
プロローグ（単元を貫く問い） 川瀬巴水の版画を美しいと思うのはなぜだろう？									
課題の設定 情報収集	1	色料の三原色について（1時間）	○				○色料の三原色・光の三原色について理解している。	【主体性】（ワークシート）	
	2	色の三属性について（1時間）	○				○色の三属性について理解している。	【主体性】（ワークシート）	
	3	ポスターカラーを混ぜて、混色レシピを考える。（1時間）	○			○	○ポスターカラーを混ぜて新たな色をつくろうとしている。 ○ポスターカラーを混ぜてどんな色ができるか想像している。	【表現力・主体性】（ワークシート）	
整理・分析	4	・混色レシピから分かったことを個人でまとめる。 ・個人で考えたことを班で話し合う。（1時間）		○			○混色した色から、色の性質を言葉でまとめることができる。 ○考えたことを、班で共有し、新たなポイントを発見することができる。	【コミュニケーション能力・主体性】（ワークシート）	
	5	混色レシピから分かったまとめを発表する。（1時間）	○				○班で話し合ったことを、分かりやすく発表することができる。 ○他者の意見を聞き、自分の考えを深めようとしている。	【コミュニケーション能力・主体性】（発表・ワークシート）	
まとめ・創造・表現	6	川瀬巴水の版画ポスターを鑑賞し、日本の伝統色について知る。（1時間）	○				◎	◎版画作品を鑑賞し、伝統色の良さや美しさを味わおうとしている。	【主体性】（ワークシート）
	7	混色レシピをもとに、伝統色を生かした屏風をつくる。（1時間）【本時】	○				◎	◎既習事項を手がかりに、混色しようとしている。 ◎着物から受けたイメージをもとに、ふさわしい色を考え、言葉で表現することができる。 ◎言葉で表現した色を、混色によってつくりだすことができる。	【表現力・コミュニケーション能力・主体性】（行動観察・ワークシート・作品）
実行・振り返り	8	屏風を鑑賞する。（1時間）	○				◎	○作品を鑑賞し、よさや美しさを味わおうとしている。	【表現力・コミュニケーション能力・主体性】（発表・ワークシート・行動観察）
エピローグ（単元を貫く問いの解決） 川瀬巴水の版画で表現される色彩の豊かさが鑑賞者に多様な美意識をわきたたせるため。									

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○色の性質を理解し、イメージした色をつくりだすことができる。

朱鷺色・藍色・茄子紺色・茜色・鈍色・鶺鴒色・亜麻色・瑠璃色・象牙色などの伝統色を基準と

して、明度や彩度を工夫することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・既習事項を手がかりとし、イメージした色を混色して作り出すことができる。

(3) 準備物

川瀬巴水の版画ポスター、絵の具道具、ペーパーパレット、和紙、金屏風、着物、ワークシート

(4) 学習の流れ（6時間目／全7時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて）	評価規準〔観点〕 ★資質・能力（評価方法）
1 既習事項の確認。〔5分〕		
<ul style="list-style-type: none"> ・どんなところが素敵だと思うか考える。 	◇川瀬巴水のポスターをはる。 ◇混色のポイントをまとめた「混色レシピ」を確認する。	
2 本時の課題を設定する。〔2分〕		
<div data-bbox="263 947 1393 1093" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習課題 着物の背景にふさわしい色をつくろう。 日比崎「伝統色」屏風を完成させよう。 </div>	◇着物を見せる。授業者が着物を着て登場し、金屏風の前に立つ。 ◇混色をして、着物の背景に置く屏風を装飾することを伝える。	
3 ねらいを確認する。〔1分〕		
<div data-bbox="263 1272 1393 1368" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ねらい 色の性質を理解し、イメージした色を作り出すことができる。 </div>		
4 情報を整理・分析し、課題解決をする。〔8分〕		
<ul style="list-style-type: none"> ・着物の背景に合う色を考え、言葉で書く。 ・イメージを班で交流する。 	◇色相・明度・彩度を意識して色をイメージするよう促す。 ◆資料を使って、色相・明度・彩度について確認をする。 ◇互いの美意識を尊重させる。答えはひとつでなくてよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせて豊かに発想し、着物の背景にふさわしく美しい色彩を考え表現の構想を練っている。 ★表現力・コミュニケーション能力（話し合い）
5 混色をする。〔20分〕		
<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具の準備をする。 ・「混色レシピ」をもとに、イメージした色をつくる。 ・完成した色を和紙に塗る。 	◇和紙とペーパーパレットを配布する。 ◇イメージと予想を持って混色させ、予想と違った色ができた時には、「混色レシピ」を見直して再度混色させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・色の性質についての知識を生かして、着物に合う色彩をつくることができる。 ★表現力（ワークシート）

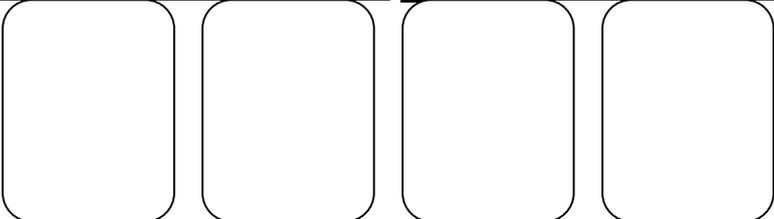
6 屏風を完成させる。[10分]		
・屏風に和紙を貼り付ける。	◇生徒作品を屏風に貼り付ける。	
7 屏風を鑑賞し、振り返りを書く。[5分]		
・着物と屏風を合わせて鑑賞をする。 ・振り返りを書く。	◇伝統色を基準に、たくさんの色ができたことに気付かせる。	
<p>生徒の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明度・彩度の違いによって、色の感じが変わることに気付いた。また、色相を合わせたり、色相環を使って色と色がどういう関係に位置するのか意識したりすることで、色の組み合わせによる調和が取れることが分かった。 ・明るさを意識して混色することで、着物の色に合う色を考えることができた。明るい色はきれいだと思った。 		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	明度・彩度の違いによって、色の感じが変わることに気付いた。また、色相を合わせたり、色相環を使って色と色がどういう関係に位置するのか意識したりすることで、色の組み合わせによる調和が取れることが分かった。 (既習事項を使って振り返りができている。)
B（合格）	明るさを意識して混色することで、着物の色に合う色を考えることができた。明るい色はきれいだと思った。 (既習事項を意識して振り返りができている。)
C（乗り越えさせたい実態）	きれいで着物に似合う色ができた。これからも、いろんな色をつくっていききたい。(既習事項を使って振り返りができていない。)

(5) 板書計画

学習課題 着物の背景にふさわしい色をつくろう。ねらい 色の性質を理解し、イメージした色をつくりだすことができる。



ポスター

←

日本の伝統色



混色レシピ

色相…

明度…

彩度…